

ラテンアメリカ・ ビジネストレンド

ラテンアメリカのLGBTと ジェンダー

人権という視点からの日本との比較

近田 亮平

(アジア経済研究所 ラテンアメリカ研究グループ長)

はじめに

ラテンアメリカには途上国が少なくないこともあり、日本における同地域のイメージは“後進的”である場合が多い。しかし、「人権」という視点から近年のラテンアメリカを捉えると、社会的弱者の権利保障が進んでいる。その好例として、「LGBT」と称される性的マイノリティの擁護や、女性のエンパワ

メントによる「ジェンダー」平等の試みを挙げることができると。そして、人権と結びついたLGBTやジェンダーなどの問題への関心や配慮は、特にグローバルに事業を展開する企業にとって大変重要になってきている。そこで本稿では、ラテンアメリカにおけるLGBTとジェンダーの状況について、「人権」という視点から日本と比較しながらデータをもとにまとめる。

ラテンアメリカにおけるLGBTの状況

カルフォルニア大学ロサンゼルス校のウィリアム研究所は、LGBTの当事者や関連問題の受容度を相対的に数値化した「LGBTグローバル受容指数(Global Acceptance Index)」をもとに、世界各国の状況や順位を定期的に発表している(Flores 2021)。同指数によるランキングの上位と下位10か国の推移をまとめると、上位には北欧や西欧の国が多い中、ラテンアメリカからウルグアイがランクインしている。一方の下位はアフリカ、中東、中央アジアの国々となっている(表1)。

LGBTグローバル受容指数をラテンアメリカの19か国と日本について、対象期間で最も上位(「濃い網

表1：世界のLGBTグローバル受容指数の上位と下位10か国の推移

順位	2000-03	2004-08	2009-13	2014-17	2017-20
1	オランダ	オランダ	アイスランド	アイスランド	アイスランド
2	スウェーデン	スウェーデン	オランダ	オランダ	オランダ
3	デンマーク	アイスランド	スペイン	ノルウェー	ノルウェー
4	アイスランド	ウルグアイ	カナダ	カナダ	スウェーデン
5	スイス	カナダ	スウェーデン	スペイン	カナダ
6	ノルウェー	デンマーク	ノルウェー	ベルギー	スペイン
7	ルクセンブルグ	ノルウェー	デンマーク	アイルランド	デンマーク
8	イスラエル	オーストラリア	ベルギー	スウェーデン	アイルランド
9	ベルギー	スイス	ウルグアイ	デンマーク	英国
10	スペイン	ベルギー	アイルランド	ネパール	ニュージーランド
166	サウジアラビア	セネガル	アゼルバイジャン	マラウイ	モルドバ
167	インドネシア	アゼルバイジャン	インドネシア	ナゴルノ・カラバフ	ヨルダン
168	コソボ	イラン	イラン	アルメニア	セネガル
169	南スーダン	ナゴルノ・カラバフ	ルワンダ	エジプト	モーリタニア
170	タジキスタン	ヨルダン	ナゴルノ・カラバフ	エチオピア	マラウイ
171	ケニア	インドネシア	ニジェール	ソマリア	エチオピア
172	ナゴルノ・カラバフ	ソマリア	エジプト	セネガル	ソマリア
173	ソマリア	タジキスタン	ソマリア	アゼルバイジャン	ジンバブエ
174	エジプト	エジプト	タジキスタン	タジキスタン	タジキスタン
175	—	—	—	—	アゼルバイジャン

注：各区分の単位は「年」。「2017-20」年は対象が175か国で、それ以前は174か国。
出所：Flores (2021) のデータをもとに筆者作成。

掛け」表示)と下位(「薄い網掛け」表示)の時期とともにまとめたのが表2である。ラテンアメリカの中で前述のウルグアイが常に順位が最も高く、近年のグアテマラをはじめ中米諸国の順位が低い傾向にある。また地域内でも、ブラジルやメキシコのように順位の変動が小さい国、コスタリカやコロンビアのように順位が上がってきている国、ペルーやパラグアイのように最近の順位低下が顕著な国など、状況の相違とともに幾つかの類似性がみられる。

日本に関しては、2000～03年の33位から2014～17年の66位まで順位を下げ、同時期のラテンアメリカ最下位のグアテマラ(74位)より上だったものの、下位2番目のパラグアイ(58位)を下回る状況であった。直近の2017～20年でも、日本より順位が高いラテンアメリカの国は19か国中12か国に上った。

また、ビジネスという観点からも参考になるデータに、「LGBTQ+旅行安全指数(Travel Safety

表2:ラテンアメリカ諸国と日本のLGBTグローバル受容指数の推移

国名	2000-03	2004-08	2009-13	2014-17	2017-20
日本	33	49	45	66	53
ウルグアイ	18	4	9	14	16
ブラジル	28	30	23	25	24
アルゼンチン	19	18	20	23	26
チリ	26	29	25	27	29
メキシコ	32	24	34	32	31
コスタリカ	60	36	29	34	33
コロンビア	42	37	36	37	35
キューバ	30	20	30	35	41
ニカラグア	44	32	33	42	46
ベネズエラ	54	34	40	39	47
エクアドル	61	39	47	41	48
パナマ	50	44	39	49	52
ボリビア	40	52	57	44	55
エルサルバドル	78	58	53	50	56
ホンジュラス	56	70	62	57	60
ペルー	37	47	56	53	61
ドミニカ共和国	35	46	55	55	65
パラグアイ	55	50	38	58	71
グアテマラ	39	53	66	74	72

注:日本を除いた「2017-20」年の順位が高い順。太字は各年代の最上位と最下位。濃い網掛けは各国の最高位で、薄い網掛けは最下位。
出所:Flores(2021)のデータをもとに筆者作成。

Index)」がある(Fergusson and Fergusson 2023)。同数値は、同性婚や差別禁止など10分野に関する国内の状況を数値化し、LGBTの当事者や関係者が外国を訪問した際のどのくらい安全に旅行できるかをランキング化したものである。なお、「LGBTQ+」の「Q」はセクシュアリティを特定しない「Questioning」で、

「+」は「LGBTQ」に分類されないセクシュアリティ(例:他人に性的・恋愛の関心のない「アセクシャル」など)を意味する。同指数は2023年時点で世界203か国を取り上げており、ランキングの上位と下位10か国の推移をまとめると、対象国数の違いもあるためランクインする国が若干異なるが、上位と下位ともにLGBTグローバル受容指数と類似の傾向となっている(表3)。

LGBTQ+旅行安全指数をラテンアメリカの19か国と日本について、順位とともに同性婚、LGBTへ

表3:LGBTQ+旅行安全指数の上位と下位の10か国(2023年)

順位	上位10か国	順位	下位10か国
1	カナダ	194	リビア
2	スウェーデン	195	スーダン
3	オランダ	196	マレーシア
4	マルタ	197	アラブ首長国連邦
5	ノルウェー	198	ガイアナ
6	ポルトガル	199	マラウイ
7	スペイン	200	クウェート
8	デンマーク	201	ナイジェリア
9	ベルギー	202	サウジアラビア
10	英国	203	ブルネイ

出所:Fergusson and Fergusson(2023)のデータをもとに筆者作成

の差別禁止、性別変更、同性カップルによる子どもとの養子縁組についてまとめたのが表4である。取り上げた4つの分野から、地域内でも特に上位国と下位国では状況が異なることがわかる。LGBTの当事者や関係者の大半は、養育費のかかる実子や養子を持たないためもあり、可処分所得が大きい場合が多い。この点などへの注目から、ラテンアメリカを含む同指数の上位国にはLGBTを主な対象とする旅行会社や関連ビジネスが盛況な国もある。LGBT関連ビジネスへの参画は、「人権」への配慮が国際的にも重視されている現状において、企業イメージの向上、ひいては収益の増加を期待できるといえよう。

日本に関しては、「同性婚」で近年パートナーシップ制度が普及し始めているものの法律上の効力はなく、その他の分野でも状況は“後進的”だといえる。そのため、2023年の日本の順位は73位であり、同性婚や性別変更が不可能なニカラグアよりも低くなっている。

ラテンアメリカにおけるジェンダーの状況

LGBTの次に、同様に「人権」という視点からジェンダーについて女性を中心に取り上げる。世界経済

表4：ラテンアメリカ主要国と日本のLGBTQ+ 旅行安全指数と内訳

国	順位	同性婚	差別禁止	性別変更	養子縁組
日本	73	パートナーシップ	限定的保護	要手術で可	ナシ
チリ	18	合法	広範な保護	手術ナシで可	両親・片方とも可
ウルグアイ	19	合法	広範な保護	手術ナシで可	両親・片方とも可
キューバ	29	合法	憲法で保護	手術ナシで可	両親・片方とも可
アルゼンチン	30	合法	限定的保護	手術ナシで可	両親・片方とも可
コスタリカ	31	合法	限定的保護	手術ナシで可	両親・片方とも可
ブラジル	33	合法	広範な保護	手術ナシで可	両親・片方とも可
コロンビア	36	合法	広範な保護	手術ナシで可	両親・片方とも可
エクアドル	38	合法	憲法で保護	手術ナシで可	ナシ
ボリビア	39	ナシ	憲法で保護	手術ナシで可	ナシ
メキシコ	42	合法	憲法で保護	手術ナシで可	限定的に可
ペルー	43	ナシ	広範な保護	手術ナシで可	ナシ
ニカラグア	58	ナシ	限定的保護	ナシ	ナシ
ホンジュラス	88	ナシ	広範な保護	ナシ	ナシ
エルサルバドル	96	ナシ	限定的保護	ナシ	ナシ
パナマ	100	ナシ	ナシ	要手術で可	ナシ
パラグアイ	111	ナシ	ナシ	要手術で可	ナシ
ベネズエラ	112	ナシ	ナシ	要手術で可	ナシ
グアテマラ	126	ナシ	限定的保護	要手術で可	ナシ
ドミニカ共和国	127	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

注：日本を除いた順位の高い順。「養子縁組」で子どもがいる場合、養子縁組が両方の親と可能なのが「両親」、両親のうち片方の親のみと可能なのが「片方」。

出所：Fergusson and Fergusson (2023) のデータをもとに筆者作成。

フォーラムが発表しているジェンダー・ギャップ指数 (Gender Gap Index) によると、146 か国を対象とした 2023 年において、上位 10 か国に北欧や西欧が多い中、LGBT の順位は決して高くなかったニカラグアが 7 位にランクインしている。一方の下位 10 か国には LGBT と同様、伝統的で保守的なジェンダー規範や宗教の影響が強いアフリカや中東の国々となっている (表 5)。

表5:ジェンダー・ギャップ指数の上位と下位の10か国(2023年)

順位	上位 10 か国	順位	下位 10 か国
1	アイスランド	137	ギニア
2	ノルウェー	138	ベナン
3	フィンランド	139	オマーン
4	ニュージーランド	140	コンゴ民主共和国
5	スウェーデン	141	マリ
6	ドイツ	142	パキスタン
7	ニカラグア	143	イラン
8	ナミビア	144	アルジェリア
9	リトアニア	145	チャド
10	ベルギー	146	アフガニスタン

出所：WEF (2023) のデータをもとに筆者作成。

ジェンダー・ギャップ指数をラテンアメリカの 19 か国と日本について、「政治」「経済」「教育」「医療」の 4 分野とともにまとめると (表 6)、最近のジェンダーをめぐる状況は LGBT (表 2) と異なることがわかる。前述のニカラグアに加え、LGBT では下位の方だったペルーが上位にランクインしている。キューバはベネズエラとともに 2022 年以降のデータがないが、2021 年

に 39 位と上位の方に入っている。ニカラグア、ペルー、キューバの 3 か国は、革命による政権交代や社会主義的な国づくりを目指した経験があり、その影響がより平等なジェンダー関係の数値に表れているとも考えられる。

また、同指数の上位国に共通なこととして、近年に順位を上げている国が多く、メキシコは 2017 年より 48 位もランクアップした。そして、これら上位国かつランクアップした国々は、「政治」の順位が最も高くなっている一方、下位国には「政治」が最も低い国が多い。この点に注目し、ラテンアメリカ諸国における下院議員の女性比率の変化をみると、多くの国で女性議員の割合が増加しており、キューバ、ニカラグア、メキシコでは 50% 以上となっている (図)。この要因として、議員に関するジェンダー・クォータ制の導入を挙げることができる (菊池 2022)。

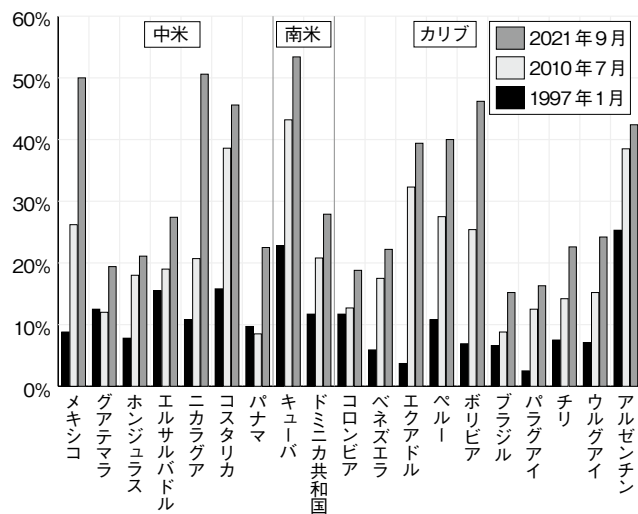
ラテンアメリカの上位国において「政治」が改善傾向にあるのに対して、日本は「政治」が 138 位と 4 つの分野で最も低くなっている。2023 年の低い順位はマスメディアでも取り上げられたが、日本は「政治」だけでなく「経済」と総合順位でも、ラテンアメリカで最下位のグアテマラを下回ってしまっている。

表 6：ラテンアメリカ主要国と日本のジェンダー・ギャップ指数と2023年の内訳の順位

国	順位			政治	経済	教育	医療
	2017	2023	変動				
日本	114	125	-11	138	123	47	59
ニカラグア	6	7	-1	6	98	1	34
コスタリカ	41	14	27	10	84	31	60
チリ	63	27	36	12	96	64	69
メキシコ	81	33	48	15	110	62	49
ペルー	48	34	14	22	79	111	117
アルゼンチン	34	36	-2	26	95	1	41
コロンビア	36	42	-6	34	92	1	51
エクアドル	42	50	-8	53	61	42	85
ホンジュラス	55	53	2	52	66	1	110
ボリビア	17	56	-39	42	90	92	125
ブラジル	90	57	33	56	86	73	1
パナマ	43	58	-15	61	85	49	58
ウルグアイ	56	67	-11	94	47	1	1
エルサルバドル	62	68	-6	55	103	69	1
ドミニカ共和国	62	81	-19	104	65	1	1
パラグアイ	96	91	5	110	76	45	54
グアテマラ	110	117	-7	123	117	94	1
キューバ	25	39	-14	27	108	45	68
ベネズエラ	60	91	-31	77	112	43	1

注：日本を除いて2023年の順位が高い順。2017年の対象は144か国。キューバとベネズエラの内訳を含む「2023年」は「2021年」（全156か国）の数値。出所における「政治」は「Political Empowerment」、「経済」は「Economic Participation and Opportunity」、「教育」は「Educational Attainment」、「医療」は「Health and Survival」。出所：菊池（2022: 64-65）のデータをもとに筆者作成。

図：ラテンアメリカ諸国における下院議員の女性比率の変化



出所：菊池（2022: 64-65）のデータをもとに筆者作成。

おわりに

ラテンアメリカにおけるLGBTとジェンダーの状況について、データをもとに日本と比較しながらまとめた。日本で“後進的”なイメージを持たれがちなラテンアメリカは、LGBTという性的マイノリティや男女平等というジェンダーをめぐる人権に関して、実は日本より先進的な地域であるといえよう。5月に開催されたG7広島サミットの際、LGBTをめぐる日本への批判が高まり、在日メキシコ大使もラテンアメリカの状況

を紹介する講演会を開催した（写真）。ジェンダーに関して、議員の女性比率が高くなったアルゼンチンでは2020年、メキシコでは2023年に女性の人権擁護の観点から人工妊娠中絶が国内全土で合法化された。

人権に関して、日本はLGBTをはじめ芸能界で発覚した性的虐待など、外圧を受けないと変わらないところがある。ラテンアメリカの経験から、ジェンダー格差の是正には女性の政治参加が重要だと考えられるが、日本の選挙における投票率は年々低下傾向にあり、女性議員の数もラテンアメリカのように増えてはいない。先進国日本は人口や経済力の減少から国力が減退する中、人権に関して世界から“後進国”とのレッテルを貼られることが懸念される。ラテンアメリカは親日的な地域でもあり、その経験から学ぼうという姿勢が今の日本に求められていよう。



G7広島サミットを前に在日メキシコ大使館が主催した講演会「ラテンアメリカと日本 婚姻平等 同性婚の法制化への道」での記念撮影。前列左から2番目がメキシコ大使、中央がLGBT 議連会長の岩屋毅衆議院議員、右から2番目がブラジル大使、右端が筆者、後列の左から2番目がアルゼンチン臨時代理大使（2023年5月8日、在日メキシコ大使館提供）

参考文献

- 菊池啓一（2022）「ラテンアメリカにおけるジェンダー・クオータの機能—女性議員比率の上昇とその効果」『ラテンアメリカ・レポート』38(2): 61-72. https://doi.org/10.24765/latinamericareport.38.2_61
- 桜井悌司（2022）「2022年グローバル・ジェンダー・ギャップ・インデックス調査とラテンアメリカ」『ラテンアメリカ協会 連載レポート100』<https://latin-america.jp/archives/54140>
- Fergusson, Asher and Lyric Fergusson (2023) “The 203 Worst (& Safest) Countries for LGBTQ+ Travel in 2023.” Asher and Lyric, June 5. <https://www.asherfergusson.com/lgbtq-travel-safety/>
- Flores, Andrew R. (2021) *Social Acceptance of LGBTI People in 175 Countries and Locations: 1981 to 2020*. Los Angeles: The Williams Institute at UCLA. <https://williamsinstitute.law.ucla.edu/publications/global-acceptance-index-lgbt/>
- World Economic Forum (WEF) (2023) *Global Gender Gap Report 2023*. Geneva: WEF. <https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2023/>

（こんた）りょうへい 日本貿易振興機構 [ジェトロ] アジア経済研究所